

あるとみられる。

4 夜勤専従看護職員

調査病院の13.3%にあたる355病院で、夜勤専従の看護職員を配置している。許可病床数別にみると300床未満の病院では300床以上の病院より夜勤専従者を配置している率が高い。設置主体別にみると、「学校法人」「個人」「その他の法人」では、他の設置主体より夜勤専従者を配置している病院の比率が高い〈統計表17, 15〉。

夜勤専従者の総数は、看護婦(士)(助産婦を含

む) 588名(配置271病院)、准看護婦(士)661名(配置221病院)、その他の看護要員が162名(配置71病院)となった〈統計表15〉。

夜勤専従者数を設置主体別にみると、「医療法人」に勤務するものが多く、看護婦(士)・准看護婦(士)のそれぞれについて、約4割に達している。

このように、現在夜勤専従看護職員の配置は、その多くは夜勤専従者を導入することで辛うじて昼間の要員を確保するような、要員確保の比較的困難な病院で行われていると推測される。

Ⅲ 関連要員の配置

今回の調査では、周辺業務を行なう関連要員の配置状況についての項目をもうけている。

これらの職員は、従看護部門の業務の整理、運営の円滑化などを目的として配置されてきた。しかし、近年院内業務の業者への委託・外注化の進行〈図9〉にともない、現時点では実数としては少ないが、看護部門の関連要員のなかに業務委託先の職員や、派遣労働者などの外部労働者が勤務する例がある。正規の病院職員と比較して、外部労働者は指揮命令系統や労働条件が異なるため、看護部門としては新たな対応を迫られることになる。

現在わが国のあらゆる産業分野において、業務の外部委託化、派遣労働者の導入などが進行しており、病院現場もまたこの影響を免れ得ない。看護部門の関連要員について、その動向を把握する必要があるという視点に立ち、項目を設定した。

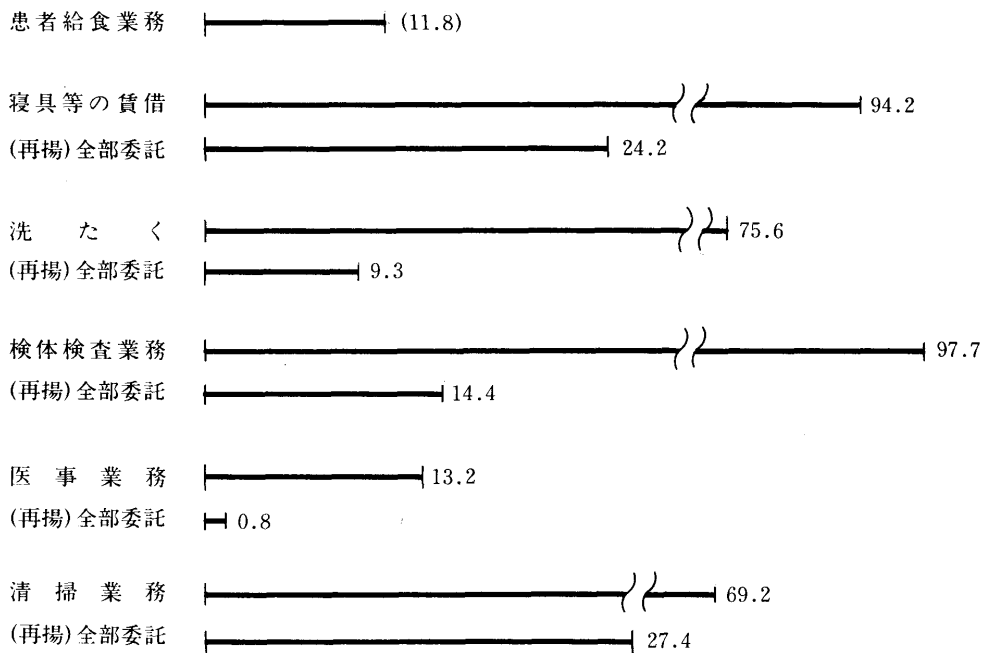
1 病棟クラーク

対象病院の24.8%にあたる663病院で、病棟クラークを配置している。設置主体別に見た場合、「学校法人」で病棟クラークを配置している率が多い〈統計表18〉。

病棟クラークの所属は、看護部門59.7%、事務部門33.0%、看護部門を含む複数部門2.2%、その他2.7%、無回答・不明2.4%である。その身分は、約9割が病院職員であるが、派遣労働者・業務委託先の職員が配置されている病院も7.4%程度あった。

病棟での事務業務にあたる病棟クラークの設置は、看護部門の事務業務を整理し、ベットサイドケアの充実をはかるという意味で注目されてきた。近年多くの施設では、院内業務全体をカバーするOA化を行なったり、検査伝票・医事会計・給食伝票など、看護部門と関わりの大きい部分にパソ

図5 病院業務委託状況アンケート (1987年11月 厚生省調べ)



コン処理システムを導入するなどの動きがあり、これを機に病棟事務処理について看護部門としても新たな対応を迫られる例が増えている。

2 メッセージャー

調査病院の20.6%にあたる549病院でメッセージャーを配置している。設置主体別に見ると「国立病院」「国立(文部省)」「学校法人」では、半数以上の病院がメッセージャーを配置している〈統計表25〉。許可病床数別にみると、規模が大きくなるに従い、配置する率が高くなることわかる〈統計表21〉。

「業務委託先の職員」をメッセージャーとして配置していると回答した病院は66 (12.0%) ある。検査部門での業務の外部委託にともない、業務委

託先か検体等の搬送要員としてメッセージャーが入ってくる例もあるとみられる。

3 看護助手

看護助手業務を行っている者のなかに、「派遣労働者がいる」のは60病院で、対象病院の2.2%にあたる。また、「業務委託先の職員がいる」と回答した病院が104 (3.9%) あり〈統計表22〉、看護助手業務の一部を外部委託する動きが出ていることがわかる。さらに、12病院では派遣労働者と業務委託先の職員がともに入っている。

リネン・清掃などのハウスキーピング部門の業務の外部委託に伴い、従来看護助手が行っていた業務の一部を外部労働者が分担するようになっていくと推測される。